

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971600240
法人名	社会福祉法人 八十八会
事業所名	グループホーム南岳荘
所在地	〒 400-0203 山梨県南アルプス市徳永436-1 電話番号 055-280-5281

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月25日

【情報提供票より】平成20年2月15日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11人	常勤	11人 非常勤 0人 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3	階建ての	0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	21,350 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 償却の有無			
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要 平成20年2月15日 現在

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三枝病院、大芝歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年4月1日

南アルプス市の北東に位置するこのグループホームは果樹園にかこまれ、静かで、日陽りのよい環境にある。また、北側には道をはさんで、農の駅があり、広々とした芝生には利用者の散歩で出掛けることも多い。H15グループホーム南岳荘ユニットあさがおが開設され、H19にユニットコスモスが増設された。同敷地内は法人の経営している特別養護老人ホーム、小規模多機能型施設がある。管理者および職員は熱意をもって日々の介護にあたっており、質の向上のため努力をしている。職員のさりげない声掛けがやわらかい雰囲気をつくり出しており、利用者の穏やかな表情が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 自己評価結果や外部評価結果をもとに職員会議等で話し合い、改善点を共有し、質の向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者及び職員とも、自己評価と外部評価の意義を理解し、評価結果をもとにサービスの質の向上に取り組む姿勢が伺える。今回の自己評価は管理者が作成した自己評価をもとに職員も確認しあい、相互に日頃の取組状況や現状と改善点などを共有している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホームの利用状況や利用者の生活の様子を報告するほか、利用者の地域行事への参加、関わり方などを相談し、会議の参加者からの情報提供をもとに前向きに地域と関わるよう努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にも利用者の日々の生活の様子を知ってもらえるよう、日頃の生活の様子を写真に収め、毎月発行している「お便り」に添付し送付している。また、金銭管理の状況についても定期的に報告し透明性の確保に努めている。夏まつりなど大きなイベントのあとには、懇談会をひらき家族が話し合える場となっており、あらゆる場を通して、意見を出しやすい雰囲気づくりをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議をきっかけに、地域の文化祭への出展や地域のボランティア団体等と積極的な交流が行われている。また、農繁期にはホーム周辺の農家の方々が利用者へ声を掛けてくれ、普通の近所付き合いがなされている。これらをもとになお一層、地域とのつながりを強めていきたいと考えている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム南岳荘

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体となる法人の理念をそのままグループホームの理念としており、人と人との縁と人間の生きる尊さを大切にしている。今後、地域とのつながりを重視したホーム独自の理念をつくりあげる予定である。	○	利用者が地域の一員として安心して生活していけるように、誰にでもわかる言葉で理念をつくりあげるため、現在検討中である。早期に実現できるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。	○	日々の介護の中で理念を確認できるよう掲げ申し送り時や、話し合い時に理念に必ず触れ確認し合うように期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭への出店や地域のボランティア団体等と積極的な交流が行われている。また、農繁期にはホーム周辺の農家の方々が利用者へ声を掛けてくれ、普通の近所付き合いがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員とも、自己評価と外部評価の意義を理解し、評価結果をもとにサービスの質の向上に取り組む姿勢が伺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年7月に同一法人内に小規模多機能型の事業所を開設し、その後は小規模多機能事業所と合同開催している。協議内容もGHの利用状況や生活の様子を報告するほか、利用者の地域行事への参加、関わり方などを相談し、会議の参加者からの情報提供をもとに前向きに地域と関わるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の包括支援センター職員が運営推進会議の構成メンバーであるため情報交換などは円滑である。しかし、市町村の介護保険担当課との連携は消極的なところが伺える。	○	市町村の介護保険担当課とも連携を密にし、ホームの現状や課題などを気軽に相談できる関係をつくり、市町村の支援体制を構築し、より一層サービスの質の向上に向けた取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の生活の様子を写真に収め、毎月発行しているお便りに添付し送付している。また、金銭管理の状況についても定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時や連絡時に、担当者が意見や苦情等を聞き出すよう努めている。また、夏まつりなど大きなイベント時に懇談会を開くなどして、家族からの意見が出るよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人で職員採用し各部署へ配属される。配属が決まったら、利用者の精神面・心理面に配慮し、円滑な引き継ぎ、受け入れができるよう心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修は施設長、管理者によって行われている。その他法人内研修は3ヶ月に1回行われ、全員参加を原則とし、レポート提出をしている。また、県や市で行われている研修も希望に応じて参加し、その後ユニット会議で伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護保険事業者による連絡協議会へ出席し、情報交換などを行っている。しかし、グループホームに限定した組織が無く交流や情報交換が難しい状況にある。	○	市町村の介護保険担当課にも相談するなどし、市内のグループホーム事業者と情報交換や交流の機会が持てるよう市町村や関係者への働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にケアマネジャーや看護師が本人宅を訪問して状態等を把握するとともに、本人との馴染みの関係づくりに努めている。また、ホームの見学やホームの生活を体験できる機会を積極的に設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から地元の方言を教してもらったり、野菜作りの時なども利用者から作り方を教えてもらいながら共に楽しみながら取り組んでいる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自に、利用者個々の「好き・嫌い票(生活情報)」を作り、好きなことや嫌いなことを事前に把握する中で、日常生活の言動や会話から本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	好き嫌い票(生活情報)をもとにし、ケアマネジャー担当者を含む2~3人で介護計画を立てていく。また、担当者会議で、利用者および家族も含め話し合いをもち意見を計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の安定している場合は、3ヶ月に1度担当者、リーダー、看護師が見直しをし、利用者家族にも確認をとっている。利用者の状態に変化のある時は1ヶ月ごとに評価している。また、連絡ノートを通して職員全体が状況の変化に対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院送迎は家族が原則として対応するが、状況に応じて柔軟に対応している。	○	法人として市の高齢者総合相談事業を受託しており、地域の相談窓口となっていることから、地域の高齢者の要求をとらえながら、幅広い柔軟な支援を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望の医療機関で受診支援をしていて、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に対する方針については現在検討中である。	○	利用者や家族の希望を聞きとり、意向を確認し、主治医を含めて話し合いの場をもち、早期に方針が定められるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づき職員に徹底させ、勉強会、ユニット会議などの場面で確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めているが、その時の利用者の状況にあわせ、希望に沿えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「あさがお」のユニットにおいては、食事介助が必要な利用者(3名)に職員(3名)が付いてしまい、他の利用者はお互い会話もすることなくBGM(歌謡曲)を聞きながら食事をされていた。	○	職員も食事介助が不要な利用者と同じテーブルと一緒に食事をし、食事を楽しむ雰囲気づくりを検討して欲しい。また、BGMも会話を妨げてしまう要因になりかねないので、音量に配慮するなど検討していくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日でき、時間帯も希望にあわせ配慮している。仲のよい友達同士と一緒に入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間を通してお花見、もみじ狩り外食などを行っている。個々の要望が実現できるよう、時には家族の協力も得ながら努力している。また、月に1回はほうとうづくりやケーキづくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに農の駅があり散歩コースとなっており、外出することが多い。水曜日にはパン屋が来るのでパンを買いに出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員が見守り、外出しようとする利用者には、一緒に付き添い、気分転換をはかるなど対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立ち合いのもと日中と夜間想定の実践をしている。また、食料・日用品の備蓄もある。	○	現在1人夜勤であり職員の負担が大きい。地域との関係をなお一層密にし、地元の消防団の協力や、近隣の人々の協力が得られるよう働きかけていくことを早急に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に把握し記録しており、必要に応じて声かけや介助がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、利用者が楽しんだ行事の写真がかざられたり利用者が花を活たり、ピアノを弾いたりして皆で歌を楽しむこともある、明るい雰囲気のある共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの棚が設置され、利用者個々に思い思いの品が飾られている。ホームからも家族に利用者の思い出の品や好きなもの、また使い慣れたものなどの持ち込みを奨励している。		